



下田歌子記念女性総合研究所

News letter



上:企画展示「開効社牧場と稲垣吉慎」(於:北海道斜里郡小清水町 小清水コミュニティプラザ町立小清水図書館(2024.9.7~13))
下:企画展示「北見女学校と稲垣吉慎」(於:網走市 オホーツク・文化交流センター展示室(2024.9.14~22))

Contents

02

Column 01

スミスカレッジのリーダーシップ教育

所長・生活科学部生活文化学科 教授 高橋 桂子

03

Column 02

東洋英和女学院を訪問して

兼務研究員・文学部英文学科 教授 志渡岡 理恵

Column 03

フェリス学院大学・

ジェンダースタディーセンターを訪問して

兼務研究員・人間社会学部人間社会学科 教授 駒谷 真美

04

Column 04

甲南女子大学と武庫川女子大学を訪問しました

所長・生活科学部生活文化学科 教授 高橋 桂子
兼務研究員・人間社会学部人間社会学科 教授 駒谷 真美

05

グループ研究報告 02

『女子の技藝』の現代語訳の取り組み

兼務研究員・生活科学部生活環境学科 教授 大川 知子

報告「日本家政学会被服材料学部会・

被服整理学部会合同夏季セミナー参加成果報告」

客員研究員・実践女子大学名誉教授 牛腸 ヒロミ

06

下田歌子ヒストリア「北見女学校」について

専任研究員・専任講師 久保 貴子

報告「北海道・小清水での特別企画展示準備」

兼務研究員・生活科学部生活文化学科 教授 田中 正浩

08

2024年度の活動

スミスカレッジの リーダーシップ教育

所長・生活科学部生活文化学科 教授 高橋 桂子

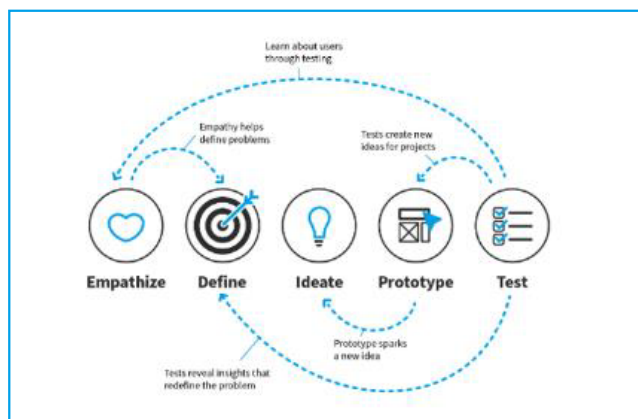


2024年8月下旬からしばらく、代表科研でミネソタに滞在しました。その合間をぬってリーダーシップ教育についてインタビューをするために、1泊2日でSmith Collegeを訪ねてきました。

1871年に創立され1875年に大学が設置されたSmith CollegeはSeven Sistersの1校で、マサチューセッツ州ノーサンプトンにあるリベラルアーツカレッジです。広々とした空間、綺麗に刈り込まれた芝生、そして威風堂々とした伝統ある建物。すべてに手入れが行き届いた素晴らしいキャンパスです。学生たちはhouseと呼ばれる一戸建て風の学内寮で生活しているのでまるで実家から通っている、という感じでしょうか。授業開始は午前8時と早く、多くの正課外活動が奨励されています。その1つがWurtele Center for Leadershipで実施しているリーダーシップ教育です。こちらではセンター長のDr. Erin Cohnにお話を伺うことができました。

Wurtele Centerのリーダーシップ教育が採用しているシステムの思考のフレームワークはCollaborative-approachです。これは、「私」の関心を議論しながら「我々」の関心に引き上げる、その過程で意見の不一致や葛藤があるがdissentすること、willingness to be wrongといった姿勢が醸成されること、こういった体験を通してひとりひとり皮むけることで「社会にインパクトを与えることが出来るリーダーシップがとれるようになる」とおっしゃっていました。

課題解決にむけた手法はDesign Thinkingです。一般には、上図にあるように共感、定義、概念化、試作、テストという5つのプロセスを行き来しながら踏む、というのですが、スミスカレッジでは学生たちが実感をもって理解できるよう、共感ではなく「observation」定義ではなく「insight」という単語



Design Thinking (出典)interaction-design.org

を用いています。トレーニングの第一歩は、「学生ホールをもっと快適なものにしよう」といった身近な課題に取り組み成功体験を積み、それを幾度か繰り返すことで提案を楽しむことができるようになり、「誰もがもつ、創造的な思考力を最大限に引き出すことができる手法だ」とおっしゃっていました。

リーダーシップは、才能ではなくトレーニングすることで習得可能なスキルです。スキルであるからには、スミスカレッジのような思考のフレームワーク、問題解決にむけた具体的な手法で「科学的にトレーニングをする」ことが欠かせないと考えます。基本的なことではありますが、重要な点を再確認できた訪問でした。

日本でも、正課授業として女子大学で初めて「全員発揮型のリーダーシップ」教育を全学共通教育科目として実践・導入した甲南女子大学の動きもあります。本学においてもどのようなスタイルのリーダーシップ教育を実施していくのか、といった議論が必要な時期だと思います。

(TAKAHASHI Keiko)



左: Dr. Erin Cohn、右: 筆者



図書館内

Column 02

東洋英和女学院を訪問して

兼務研究員・文学部英文学科 教授 志渡岡 理恵



カ ナダ・メソジスト教会によって創設された東洋英和女学院は、今年で創立 140 周年を迎える伝統校で、女子教育に尽力してきた歴史など本学と共通する点が多いことから、2024 年 7 月 1 日、更なる交流と連携事業の推進を目指して、



本研究所の久保貴子専任研究員とともに同学院を訪問しました。当日は、人間科学部の尾崎博美教授と野田潤准教授、史料室職員の松本郁子氏と三笠知世氏が笑顔で迎えてくださり、「学院資料・村岡花子文庫展示コーナー」や史料室を詳細な解説を交えながらご案内くださいました。

展示コーナーには、創立者 マーサ J. カートメル の肖像画や渡航用のトランクなど当時の様子をリアルに伝えるもの、他、『赤毛のアン』シリーズの翻訳者としても著名な卒業生の村岡花子に関する史料、学院のシンボル楓をモチーフとした記念グッズといった貴重な品々が大切に、分かりやすく、美しく並べられており、多くの学びを得ました。

史料を拝見した後、会議室において、ニューズレターやシラバス、関連書を交換し、自校教育のありかたや史料の活用方法、連携の可能性についてディスカッションしました。先生方は、学術的な観点から学院史に向き合い、女子大学の社会的意義などについて考察されており、史料室職員の方々と先生方が共通の目的に向かって協力されている姿に感銘を受けました。話が弾み、今後の更なる交流・連携を約束することができ、実り多き訪問となりました。ご協力くださった皆様に深く感謝申し上げます。(SHIDOOKA Rie)

Column 03

フェリス女学院大学・ジェンダー・スタディーセンターを訪問して

兼務研究員・人間社会学部人間社会学科 教授 駒谷 真美



下 田歌子女性総合研究所では国内・海外女子大学との連携にむけた取り組みを行っている。2024 年度、女子大学訪問第 1 号となったのがフェリス女学院大学ジェンダー・スタディーセンター（横浜市・緑園キャンパス;愛称 Gem（ジェム））である。

2024 年 6 月 12 日、久保専任研究員とともに訪問。センター長の藤巻光浩教授はじめ、山本千晶准教授、関口洋平准教授らと面談し、設立の経緯や現在の活動状況について説明を受ける機会を得た。

Gem は 2023 年度に設立され、今年で 2 年目を迎えた。所属教員はジェンダーが専門の先生方と、他分野であっても多少なりともジェンダーと関連のある先生方で構成されている。教員だけでなく学生も積極的に関与している点が特徴的で、設

立当初から 1 年生から 4 年生までの学生たち（留学生も含む）がプロジェクトやイベントに参加している。その活動は朝日新聞など大手メディアからも注目され、取材も受けているとのことであった。

訪問して印象的だったことは、Gem がジェンダーに関心がある学生たちが自然に集う「しゃべり場」として機能している、という点である。学生たちが、先生や友人とジェンダーについて気軽に会話できたり、最新の資料をピックアップできたり、気負わずに学べる雰囲気作りが秀逸であった。

今後、本研究所がジェンダー領域でさらに研究を深化させていくためには、教員のみならず、Gem のようにジェンダーに少しでも関心のある学生に主体的な参加の機会を提供していくことが必要であると痛感した次第である。(KOMAYA Mami)

甲南女子大学と 武庫川女子大学を訪問しました

所長・生活科学部生活文化学科 教授 高橋 桂子 兼務研究員・人間社会学部人間社会学科 教授 駒谷 真美

前

期の講義があけた8月5日(月)、駒谷真美先生と高橋で、関西地区にある2つの女子大学、甲南女子大学(神戸市東灘区)と武庫川女子大学(西宮市池開町)を訪問してまいりました。目的は、甲南女子大学は全員発揮型のリーダーシップ教育について、武庫川女子大学ではMUKOJO 未来教育プログラム SOARについて詳細を伺うことでした。

● 甲南女子大学

甲南女子大学では、佐伯勇教務部長(人間科学部文化社会学科教授)と面談しました。正課授業としては女子大学で初めて「全員発揮型のリーダーシップ」教育を全学共通教育科目として実践されています。佐伯先生は、2017年から、従来の先頭に立って集団を引っ張る「リーダーシップ」ではなく、チームの目標達成に向けて、権限や役職によらず全員が自分らしい力を発揮し、またそれぞれの良さを引き出し合う「リーダーシップ」に着目した教育を立ち上げられ、8年後の2025年度には、日本初の試みとして、全入学生が全学部学科混成のクラスで1年間「全員発揮型のリーダーシップ」について実践的に学ぶことができる体制を構築されました。特色としては、学習アシスタント LA (Learning Assistant) の役割をあげることができます。具体的には、前年度の受講生が翌年度に LA となって、教員の支援を得ながら授業進行と受講生のリーダーシップの育成を担当している点です。インタビューでは、実践に至る試行錯誤のプロセスと教育の醍醐味について具体的にお話を聞くことができました、貴重な訪問でした。

今回の「全員発揮型のリーダーシップ」教育の取材は、本研究所の今後の在り方を考える上で大変有意義でした。甲南女子大学では、この教育をさらに発展させ、2025年度からは「学部学科を超えて全学生が履修できる学科縦断の学び」と位置づけ、全学部の希望者全員が履修できる準備をされています。VUCA の時代、本学も女子大として生き残るには「全員発揮型のリーダーシップ」教育の視点は肝要と考えます。下田歌子記念女性総合研究所も、ワークショップやシンポジウムなど小規模の段階からチャレンジできる柔軟性を持つこともあり、「全員発揮型のリーダーシップ」教育のプラットフォームとして場の提供から貢献できる可能性はある、と考えます。



佐伯 勇先生

● 武庫川女子大学

当日は午後1時半に正門にて武庫川女子大学女性活躍総合研究所長・助手の高本裕子さんと待ち合わせしました。その後、女性活躍総合研究所のある本館会議室にて所長で副学長の高橋享子先生から直接、MUKOJO 未来教育プログラム SOARについてお話を伺いました。

女性活躍総合研究所は2020年に設立されました。武庫川女で学ぶ全学部全学科の女子大学生たちの学びの基盤となるプログラムを展開すべく、研究所メンバーを中心とする SOAR 委員会で free talking を行いました。そこでは一生をきり拓く力、ジェンダー、無意識の偏見、キャリアデザイン・ライフプランなどがキー概念としてあがり、それらを骨格として SOAR が構成され、2022年にこのプログラムがスタートしました。

SOAR の導入講義として、入学式直後のオリエンテーション期間に、3～4学部(全12学部)の新入生を講堂に集めて、1コマ80分で3テーマ(ジェンダー・セクシュアリティ、キャリアデザイン、ライフプラン)を講義されています。

共通教育科目「SOAR 人生100年をきり拓く力」は on demand・選択科目、定員は150名で前期・後期それぞれに同一内容で開講されています。定員150名に対し約600名という、競争率4倍にもなる人気の高い科目です(1学年約2,500人)。2024年度はジェンダー・セクシュアリティ、キャリアデザイン、ライフプランに加え、女性のためのヘルスケア、女性と法、マーケティング、外資系企業でのキャリアデザイン、国際活動など、総勢11名の教員によるオムニバス講義を展開し、講義後には毎回、5問ほどからなる課題レポート(Google フォーム)を実施して理解度を確認されている、とのことでした。

高橋所長は、大学内にある1つの研究所が主体となって全学に関する取り組みを実施するには「大学としてコンセンサス」を得ることが欠かせない、と強調されていました。SOAR 導入実施前には、理事長、学長、副学長などに対して講義内容についてプレゼンテーションを行われたそうです。その時、出席されていた学長から「感動した」というお言葉を頂いたことで、スムーズにスタートすることができた、とのことが高橋先生が印象的でした。



高橋享子先生(前列真中)

(TAKAHASHI Keiko, KOMAYA Mami)

『女子の技藝』の現代語訳の取り組み

兼務研究員・生活科学部生活環境学科 教授 大川 知子

昨年度より研究所の活動にはグループ制が導入され、複数名による活動を行うこととなった。織田涼子先生、牛腸ヒロミ先生、佐藤幸子先生、関登美子先生、大川から成る本グループは、家政、美術に懸かる内容を主軸とし、「文化グループ」として活動をしている。この間、取り組んでいるのが、『女子の技藝』（1905（明治38）年刊）の現代語訳である。そのきっかけは、月に一度研究所で行われている勉強会で、織田先生が本書を読み解く試みをされたことに始まり、また、以前、恵那市立岩邑中学校の皆さんが地元の偉人として下田先生の著作『女子の修養』の現代語訳（2007年にNPO法人いわむら一斎塾により発刊）に取り組まれたことに着想を得て、メンバー5名の専門性を活かすことの出来る現代語訳に挑戦することとし、昨年度に続き、今年度の当研究所の年報に掲載予定でいる。

同時に、今年度も『常磐祭』での研究所の展示コーナー

の一角をお借りして、本書の中で扱われている項目に関連した展示を行なった。上巻・第一にある「機織」に書かれている日本各地の織物産地の内、今夏、牛腸先生が綿織物の産地である掛川に行かれた際に購入された葛布※や120番手という細い綿糸で繊細に織られたストール等を展示した。また佐藤先生も、担当された下巻・第7の「料理」の挿絵にある道具やテーブルウェアで、本の中の事柄を今に示す展示をして下さり、来場者の好評を得た。

下田先生が「技藝」と見なしたものの内、現代の技術を以ってして、今はそのような手間暇を掛けられないものが多数存在するものの、本書は私たちの生活に必要なモノを自らの感性を生かしながら、どのように作るのかという不変の原理原則が書かれてあり、多くの示唆を与えてくれる。（OKAWA Tomoko）

※葛は山野に自生する蔓草で、長さが6m以上にもなる豆科植物。この蔓より採った繊維を緯糸として織ったものを葛布と呼ぶ。

報告

日本家政学会被服材料学部会・被服整理学部会
合同夏季セミナー参加成果報告

客員研究員・実践女子大学名誉教授 牛腸 ヒロミ

2024年8月27～28日、日本家政学会被服材料学部会・被服整理学部会合同夏季セミナー「未来につなぐ匠の技」に参加するために、静岡県掛川市に出かけました。

掛川は下田先生の『女子の技藝』にも出てくる葛布の産地で、遠州は三河、泉州とともに、三大綿産地と言われ、古くから綿産業の盛んなところ です。

「匠の技が織りなす遠州織物の魅力」では、極細綿糸を使って、極薄物の平織布を織りあげる技術と代表的な遠州織物であるコーデロイ（コール天）生地についての技術が紹介されました。



常磐祭での展示の様子

「かけつぎー過去から未来へ継承される衣類修復の技術」では、「かけつぎ」の技術の紹介と実習でした。かけつぎとは着物の損傷（破れ、擦り切れ、虫食いの穴など）を修復する技術で、『女子の技藝』にもページが割かれています。

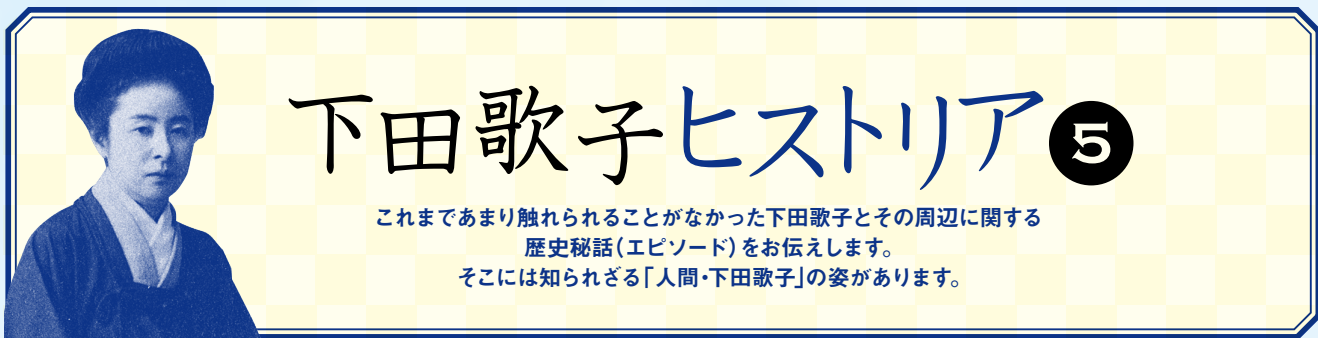
2日目午前は世界一の技術を持つ遠州織物の福田織物と代表的な遠州織物であるコーデロイのカッチング〔注1〕（剪毛加工）〔注2〕を主たる業務としているカネタカ石田の工場見学と資料購入、午後は葛を原料に繊維を採取して織物を織り、作品を製作している小崎葛布工芸（株）他の工場見学と資料購入でした。

『女子の技藝』購読により、過去の事実を知り、夏季セミナーに参加して、現在の状況を知ることができ、『女子の技藝』の理解が深まりました。

2日間ともに、台風の影響で天候が悪く、市内の店舗はほぼ閉店状態で、市内を散策しての資料購入はかないませんでした。（GOCHO Hiromi）

〔注1〕 たて方向に短い毛羽で覆われた畝を持つコーデロイ製作時に畝（山状）になっているよこ糸のバイル糸を中央でカットする工程をいう。

〔注2〕 織物表面の毛羽の毛足を揃える加工。織物表面が毛足の短い毛羽で覆われている別珍製作時に、よこ糸のバイル糸を中央でカットする工程を剪毛と呼び、カッチングとともに剪毛加工という。



「北見女学校」について

下田歌子は女子教育に邁進し、多くの学校の設立に関わった。帝国婦人協会の設立直後から、女学校設立の意義を説く地方遊説を行い、設立のための視察を行っている。下田が蒔いた種は、支援者たちによって、実を結び、女学校が創設され、下田は各学校の中核にあって関わった。例えば、「順心女学校（理事長・校長）一九一八年設立」「淡海女子実務学校（第二代校長）一九一九年設立」などである。これらの学校の一つに「北見女学校」がある。

北見女学校の設立と下田との関わりは、その詳細が知られることはなかった〔注1〕。北見女学校は、一九一〇年現在の網走市北見町南通りに稲垣吉慎^{いながきよしちか}が仮校舎の「北見女学校」を開校し、翌年網走市桂ヶ岡に新校舎（木造二階建て、寄宿舍あり）を建設した。小学校卒業以上の女子教育を行う網走管内初めての女学校としての意義は極めて大きかったが、一九一七年閉校となった。

稲垣吉慎は、下田歌子と同郷（現在の岐阜県恵那市）の出身で、実践女学校の舎監となって尽力したと伝わる。はじめ小清水（現在の北海道斜里郡小清水町）に入植し、開効社農場を開き、その後網走（現在の北海道網走市）へ移って、この「北見女学校」の校主となった。

下田歌子が北海道教育会第一四回夏期講習会に招かれたのは、一九〇一年八月五日のことで、札幌女子尋常小学校において家政学を講義した。そして、この夏期講習会における講義や講演は、同年北海道教育会より『下田歌子先生家政学講義』として刊行された。当時、北海道での下田の講演は、およそ五〇〇人が来場するほど人気を博していた。下田の来訪と講義が契機となり、女学校設立が企画された。そもそも下田の教えに傾倒していた稲垣吉慎は、女学校設立資金準備のために、小清水で開効社牧場を経営していたのだが〔注2〕、当時、網走管内に女子教育の施設がないことを憂えた稲垣は、牧草地を売却し、得た資金を建設資金に充当して、自ら校長となり女学校を開いた。網走管内初の女学校は、選科、本科、補習科に分かれ、このほかに

専任研究員・専任講師

久保 貴子



一九一二年五月には付属幼稚園も開設している。

「女子教育界における北斗の樞星たるべきなり」と称された北見女学校ではあったが、やがて一九一五年度をピークに、徐々に生徒数が減少した。経営難に陥った稲垣は、同年町営化を要望したが、町が稲垣から借り受けて「網走女子職業学校」と改称した。第一次世界大戦の好景気直前で、女子の就学・進学率が高まる時期が迫っていたのだが、一九一七年稲垣は降雪と時化の悪天候の中、網走を退去した。稲垣は学校地近くの桂の古木を愛し、一帯を「桂ガ岡」と名付け、桂陵と号した。この地を深く愛していたことがうかがえる。志半ばの退去はさぞかし不本意であったことだろう。

後に、北海道庁立網走高等女学校が一九二二年三月に設置認可となり、四月旧北見女学校において授業が開始されている。この校舎が継続使用されたことは、堅牢な建造物であった証拠であろう。そして、この庁立女学校設置は、



「開効社牧場事務所跡」説明板(左)と石碑(右)
：北海道電力小清水変電所東側

旧北見女学校の前歴から、無条件に認められたという。やがて北海道立網走女子高等学校を経て、北海道立網走向陽高等学校、北海道立桂陽高校へと、その沿革を辿ることができる。現在、北見女学校跡付近には、何代目かの桂木と「私立北見女学校」の記念石碑が残るのみである〔注3〕。碑文には「明治四十三年稲垣吉慎は網走管内最初の私立女学校を北見町に開校した。翌年この地に木造二階建ての校舎を新築移転し、あわせて幼稚園も開設した。小学校卒業後の女子を教育する場としては管内唯一の学校であった。」とあり、稲垣吉慎の先駆的な偉業を今に伝えている。（KUBO Takako）

※資料閲覧調査に関して、網走市郷土博物館、網走市図書館、斜里郡小清水町立図書館、および関係各位には懇切なご尽力を賜りました。記して、御礼を申し上げます。

〔注1〕久保貴子「北見女学校と下田歌子・稲垣吉慎」(下田歌子記念女性総合研究所「年報10」2024年2月)。

〔注2〕入植と牧場経営の目的は、「東京実践女学校校長下田歌子が同校の基本財産造成のためであったという」(「開効社牧場事務所跡」説明板・石碑、小清水町教育委員会)。

〔注3〕1997年網走市市制50年を記念して市内二十ヶ所に設置した史跡標柱のうちの一つ。



「私立北見女学校跡」記念石碑
：網走市桂町2丁目 勤労者総合福祉センター(ソレイユ網走)付近

報告

北海道・小清水での特別企画展示準備

兼務研究員・生活科学部生活文化学科 教授 田中 正浩

2024年9月7日(土)～13日(金)、北海道斜里郡小清水町立小清水図書館において、「開効社牧場と稲垣吉慎一下田歌子とその時代」特別企画展示会が開催されました。展示準備に向かったのは開催日前日6日(金)。降り立った女満別空港から目的地・小清水までは車で一時間余り、アクセスルートは二通り。果てしなく続くジャガイモ畑と防風林に囲まれた、通称「じゃがいも街道」をひたすら走るか、広大なオホーツクの海を眺めながら走るかです。120年前、下田の志に共感し、この地に入植し、牧場経営を始め、ついには「北見女学校」を開設した稲垣が切り拓いてきた険しい道のりを想像し、感じながらハンドルを握っていました。ともに北海道ならではのスケール感ある景観を満喫できるルートでもありました。

展示会場となった図書館は、近代的ながら周囲の自然と調和し、落ち着いた雰囲気でした。館長、司書の皆様に歓迎を受け、展示場所を確保していただ



小清水図書館



オホーツク海を望む

いていたお陰もあり、スムーズに準備ができました。展示会は、その後、会場を移しますが、役所や他の図書館をはじめ、ふと立ち寄ったスーパーマーケットなどでも展示告知ポスターを目にしました。関係諸機関、関係各位の特段のご支援ご協力をいただいたの展示会となったことを改めて感じた次第です。

(TANAKA Masahiro)

2024年度の活動

■ 新入生向け展示開催

2024年4月1日(月)～4月15日(月) 日野キャンパス本館1階 ホワイエ前スペース

■ 研究会・報告

2024年5月	標葉 靖子兼務研究員	6月	高橋 桂子所長	10月	広井 多鶴子兼務研究員
	眞有 澄香客員研究員	7月	高橋 美和兼務研究員		織田 涼子兼務研究員
	駒谷 真美兼務研究員	9月	佐藤 幸子兼務研究員	12月	深澤 晶久兼務研究員
	久保 貴子専任研究員		大川 知子兼務研究員		志渡岡 理恵兼務研究員

■ 企画展示「新潟青陵学園と下田歌子」

2024年6月 7日(金)～7月5日(金) 新潟青陵大学 1号館2階(図書館内)
2024年6月28日(金)～7月5日(金) 新潟青陵高等学校

■ 図書館合同企画展示「下田歌子の旅 岐阜から東京へ 東京から世界へ」

2024年8月3日(土)～9月30日(月) 実践女子大学日野キャンパス 図書館エントランス 展示スペース

■ 企画展示

「開効社牧場と稲垣吉慎 ―下田歌子とその時代―」

2024年9月7日(土)～9月13日(金)
北海道斜里郡小清水町 小清水コミュニティプラザ 町立小清水図書館

「北見女学校と稲垣吉慎 ―下田歌子とその時代―」

2024年9月14日(土)～9月22日(日)
北海道網走市 オホーツク・文化交流センター 展示室



文化グループ展示(常磐祭)



資料展示(常磐祭)

■ 常磐祭・展示

第68回日野キャンパス常磐祭「sparkle～輝く瞬間」

2024年11月9日(土)、10日(日) 日野キャンパス 本館449・450教室
● 学園資料展示 ● グループ研究紹介・報告・展示

■ 「第22回 下田歌子賞」表彰式(協力事業)

2024年12月21日(土) 岩村コミュニティセンター(岐阜県恵那市)
● 学園資料展示など



下田歌子賞展示

■ 新編下田歌子著作集『よもぎむぐら 中』刊行

校注:久保 貴子(風間書房、2025年3月刊行予定)

下田歌子記念女性総合研究所HP

本研究所HPでは、「活動報告」「研究員便り」等を中心に、研究所の様々な取り組みを広く内外に発信しています。その他、定期刊行物の紹介、研究所主催のシンポジウムや展示の予定等も随時更新してまいりますので、どうぞご活用下さい。

詳細はこちら
<https://www.jissen.ac.jp/shimoda/index.html>

